

「ペトロの離反予告」

2015年12月18日

ルカによる福音書 22章 31節～34節。「シモン、シモン、サタンはあなたがたを、小麦のようにふるいにかけることを神に願って聞き入れられた。しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」するとシモンは、「主よ、御一緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております」と言った。イエスは言われた。「ペトロ、言うておくが、あなたは今日、鶏が鳴くまでに、三度わたしを知らないと言うだろう。」

弟子の一人として選ばれたシモン・ペトロはガリラヤ人らしい、勇敢で、律儀で、義理堅い気質を強く受け継いでいた。また、ペトロは深く考える人ではなく、直情的に反応する気の短い性格でもあった。事ある毎に、真っ先に答え、行動する人物であった。主イエスから「わたしを何者だと言うのか」と問われた時、ペトロは真っ先に「神からのメシアです」と、全幅の信頼を持って、告白をしている。ところがその後、主イエスが、排斥され殺され、しかし三日目に復活すると言われると、死からの復活などあり得ないと思うペトロは主イエスを脇へお連れして、いさめた。主イエスから「サタン、引き下がれ」と叱責されている。この出来事はペトロの性格を如実に表している。弟子たちの中では、自分こそがと、名実共に一番弟子と自認していた。ペトロは、主イエスを愛し信頼し、全身全霊を献げる思いを強く持っていたのである。

十字架にかけられる前夜、主イエスはペトロに語りかけた。「シモン、シモン、サタンはあなたがたを、小麦のようにふるいにかけることを神に願って聞き入れられた。」サタンがペトロたちをふるいにかへ、下に落っこちる。ペトロは主イエスを裏切り、離反すると予告された訳である。ペトロは仰天した。こんなに愛し信頼し、従っている自分が師イエスを裏切ることなど、あり得ない。自分の篤い思いを分かってもらえないのかと、怒りを込めて返答した。「主よ、御一緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております。」このペトロの言葉に偽りはない。心底、投獄も、死をもいとわないと思っていた。

主イエスはペトロの挫折を見抜いておられた。だから、怒りを込めた返答に対し「ペトロ、言うておくが、あなたは今日、鶏が鳴くまでに、三度わたしを知らないと言うだろう」と、ある意味では冷かに離反を予告している。ペトロの離反予告は四つの福音書に並行記事がある。ルカ福音書の著者は主イエスの特別な言葉を挿入している。それが「しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい」という言葉である。心が燃えているのを知っているが、つまずき、裏切る。しかし、ペトロの信仰が無くならないように祈った。だから、立ち直った時は、皆の者を力づけるような働きをしなさい。この主イエスの言葉はペトロへの信頼であり、慰めと励ましに満ちている。ペトロは、主イエスが言われた通り裏切った。しかし、復活の主イエスに出会い、赦しを知ってからは立ち直り、初代教会の仲間たちを力づけ、命を賭して伝道し、信仰者の模範となっている。

福音書は、主イエスを理解せず、弟子たちは失敗と挫折の連続であったと記している。人間の弱さを知り抜き、そこから、神に立たせられていく福音の力を伝えている。私たちも主イエスに信従しようとしても、くずおれてしまう。しかし、信仰が無くならないように、主イエスに私たちも祈られている。この祈りが私たちを立ててくださる。